南魚沼市の今を見つめる

南魚沼の歴史

南魚沼の地は、古来より越後と関東圏などを結ぶ交通の要所として、重要な位置を占めていました。また、外部からの要素を取り入れつつも、豪雪地帯として独自の文化をはぐくんできました。

縄文時代までは、台地や丘陵部を中心として、人々の生活が営まれたことが、火炎型土器を代表とする縄文土器や石器などからわかっています。時代が下ると低地への定住が進みます。古墳時代には、飯綱山古墳群など、県内でも有数の古墳が多くつくられた地域となりました。その麓では大きな集落の痕跡が見つかり、この地域に大きな力を持った人物の存在がうかがえます。

中世に入り、上杉氏が越後守護になると、家臣の長尾氏が坂戸城や樺沢城などを中心に、この地を治めました。戦国末期には、上杉謙信の跡目争い（御館の乱）に勝利して跡を継いだ上杉景勝や、その家臣の直江兼続といった武将を輩出しました。

江戸時代には、三国街道の宿場町として栄え、長岡へ下る船の発着場として川運も発展しました。その拠点の一つ、浦佐の普光寺では、毘沙門堂で裸押合大祭が行われていました。裸押合大祭は、現代も多くの人でにぎわっています。

産業として、越後縮（越後上布）の生産が盛んになり、江戸時代の天明から文化期には20万反も生産されたといわれています。その縮の仲買を行っていた塩沢の鈴木牧之（すずきぼくし）は「北越雪譜（ほくえつせっぷ）」を著し、雪国の実情を江戸の人々に広く知らしめました。

History of Minamiuonuma

Since ancient times, Minamiuonuma has been an important transportation point connecting the Echigo and Kanto regions. Minamiuonuma adopted elements from outside and created its own original culture as a heavy snow area. Until the Jomon Period, people had lived near the plateau and hills. During the Kofun Period, persons of great authority lived in the region, as can be seen by the Iizunayama tumuli. During Medieval Japan, after the Uesugi clan became custodians of Echigo, the Nagao clan which is the vassal of the Uesugi clan ruled Minamiuonuma area around Sakado (castles) and Kabanosawa castles. In the Edo Period, Minamiuonuma prospered as a post town on the Mikuni Kaido, and ship transportation was developed as landing point on the way down to Nagaoka. Production of Echigo Chijimi (Echigo-jofu) expanded and it is said that 200,000 pieces were produced. Suzuki Bokushi, a chijimi merchant, wrote “Hokuetsu Seppu,” which widely advertised the actual conditions of the snow country to people living in Edo.

飯綱山古墳群（県指定史跡）

10号墳は大塚とも呼ばれ、飯綱山古墳群の中で最大の古墳。明治時代に発掘され、県内では珍しい副葬品が出土しています。

坂戸城跡（国指定史跡）・坂戸城絵図（市指定文化財）

越後守護 上杉家の家臣である上田長尾氏の居城。関東と越後府中（上越）を結ぶ交通の要所、国の守りとして重要な位置を占めていました。上杉景勝が会津へ転封し、その後、堀直寄が城主となるも慶長15年（1610年）に転封し、坂戸城は廃城となりました。
鈴木牧之は文化14年（1817年）坂戸城跡に登り、その様子を絵図に残しています。

毘沙門堂楼門（市指定文化財）

日光東照宮をモデルに、天保2年（1831年）建立されたといわれています。階下の天井には、谷文晁（たにぶんちょう）により「八方にらみの龍」が描かれています。

北越雪譜初版本（市指定文化財）

雪国越後の民俗、習慣、伝説、産業などを書き記した牧之の代表作です。発案から出版まで40年近くかかり、天保8年（1837年）に出版されました。

原遺跡出土火焔型土器

原遺跡は、姥島新田にある縄文時代の遺跡です。縄文時代中期になると火焔型土器が盛行し、さまざまな文様の土器がつくられています。

三国街道栃原峠（市指定文化財）

江戸時代初期に開削された五箇から堀之内へ抜ける峠です。頂上付近には茶屋の跡が残っています。それまで三国街道は、川を渡り小出方面を迂回していました。